

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宝木中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年 国語104人 社会104人 数学104人

理科104人 英語104人

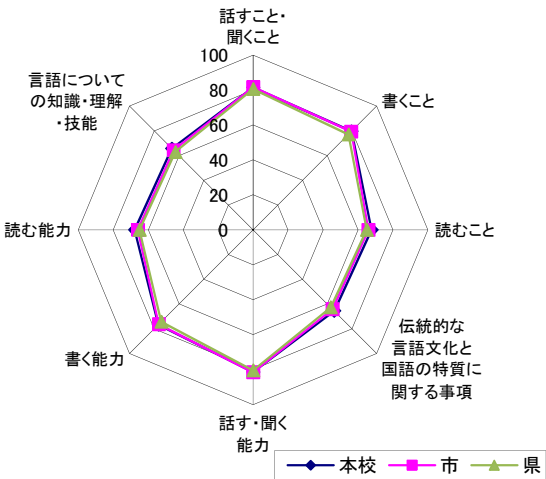
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宝木中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.4	81.6	80.5
	書くこと	79.6	79.4	77.2
	読むこと	67.8	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.6	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	81.4	81.6	80.5
	書く能力	76.7	76.4	74.3
	読む能力	67.8	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	65.8	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

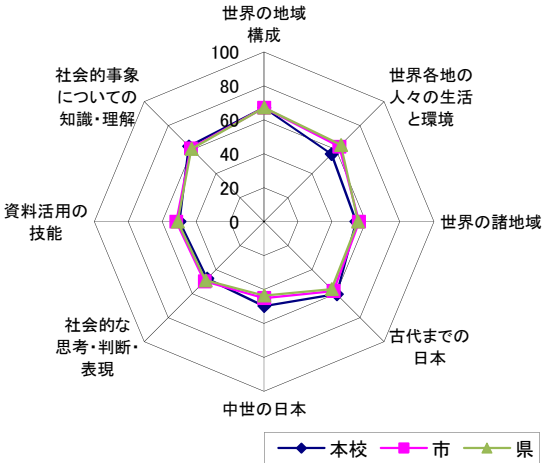
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容を正確に聞き取ることができる。聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫を理解している。 ●司会者の討論の進め方の工夫、質問を性格に聞き取り、それに対する適切な発言を考える力がやや不足している。	・言語活動を取り入れ、「人前で話すること」や「話題に対する適切な発言や質問を考える」活動に力を入れる。また、話し合いを行う際に、司会者の議事の進め方の工夫にふれ、どのような工夫があるかを、生徒自身で考えさせる活動を取り入れる授業を定期的に行う。
書くこと	○指定された字数や条件で、自分の立場と根拠を明確にして、文章を書くことができる。 ●文章の内容に沿ったまとめを書く力が、やや力不足である。	・大体の生徒が条件に従って文章を書くことができるので、わかりやすい文章の書き方を工夫させる。作文指導の際、まとめのパターンをいくつか提示した上で、自分の内容にあったまとめ方ができるように、まとめに重点を置いて指導する時間を設ける。
読むこと	○「登場人物の行動や心情を読み取る力」「表現の特徴をとらえる力」は市と県の平均を上回っている。 ●文章中の時間的、空間的な場面の展開や情景描写をとらえる力は、平均をやや下回る。	・登場人物の心情をとらえる授業の際、情景描写が、伏線となり、心情に迫ることができることに気づかせるようにする。また、場面を捉える際、時間や空間、雰囲気などがヒントになることを確認する時間を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○全体的にみると、既習事項の漢字の読み書きは、ほぼ平均である。また、「品詞の識別」「歴史的仮名遣い」についての知識理解は、平均を上回っている。 ●既習事項の漢字の読み書きに、やや力不足な傾向がある。	・既習事項の漢字を定期的にテストする。また、品詞をはじめとする文法事項も定期的にテストを行うなど、定着の度合いを確認する。

宇都宮市立宝木中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	67.2	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	56.3	62.6	63.9
	世界の諸地域	54.3	55.9	55.3
	古代までの日本	60.4	57.8	56.2
	中世の日本	49.8	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	47.5	49.7	48.9
	資料活用 の技能	49.9	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	62.7	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

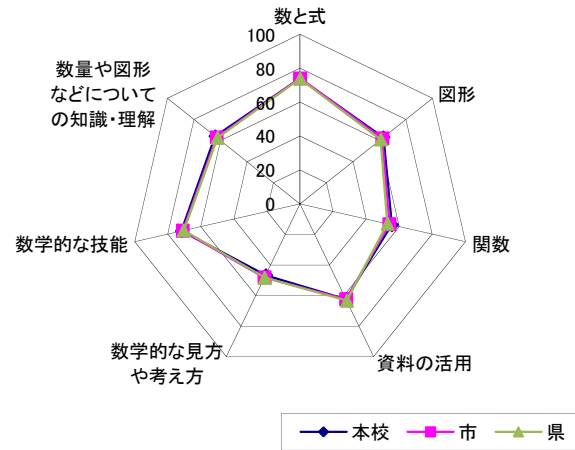
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋の分布や地域区分に関する知識理解と、緯度と経度の理解をもとにした地図の読みとりに関する技能を問う問題の正答率が県平均より高い。 ●世界の主な国々の名称と位置に関する知識理解を問う問題の正答率が県平均より低い。	世界の主な国々の名称と位置に関する興味関心を高めるとともに、知識の定着を図っていく必要がある。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の宗教の分布に関する知識理解を問う問題の正答率が県平均より高い。 ●世界各地の人々の生活と環境についての理解をもとに雨温図について判断しその根拠を説明させる問題と、世界各地の人々の住居についての知識理解を問う問題の正答率が県平均より低い。	雨温図から地域の気候の特色を読みとる技能を身につけさせるとともに、大まかな気候の分布と人々の生活の特色との関連についての理解を深めさせていく必要がある。
世界の諸地域	○季節風がアジア州の気候にもたらす影響に付いての知識理解を問う問題の正答率が、県平均より高い。 ●南アメリカ州の言語・人口・人種・民族に関する図を読みとる技能を問う問題と南アメリカ州の熱帯林破壊の資料を読みとる技能を問う問題の正答率が県平均より低い。	世界の諸地域の中でもアジア州に関する内容についてはおおむね理解しているが、南アメリカ州に関する内容については理解が浅い。地域による理解度に差があるので、幅広く理解させていく必要がある。
古代までの日本	○院政についての知識理解を問う問題の正答率が県平均より高い。 ●奈良時代の特色についての資料を読みとり考えさせる思考・判断・表現力を問う問題の正答率が県平均より低い。	政治の特色についての理解をもとにその移り変わりについて考えたり、時代や文化の特色について資料を読みとって考える力を身につけさせていく必要がある。
中世の日本	○承久の乱の理解をもとに鎌倉幕府のしくみの変化について説明する思考・判断・表現力を問う問題と東アジアとの関わりについての知識理解を問う問題の正答率が県平均より高い。 ●鎌倉幕府の衰退についての理解をもとに資料を読みとる技能を問う問題の正答率が県平均より低い。	鎌倉時代の歴史の大きな流れの理解を深めそれをもとに資料を読みとる技能を高めていく必要がある。

宇都宮市立宝木中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	74.0	74.1	73.8
	図形	62.9	62.0	60.9
	関数	55.6	54.1	52.9
	資料の活用	62.4	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	46.7	48.2	48.3
	数学的な技能	71.7	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	64.0	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

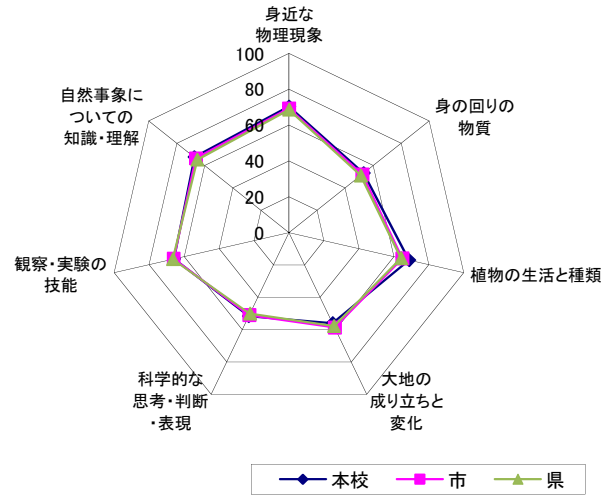
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○基本的な計算問題に真面目に取り組む、計算力が身についている生徒が多い。ノートもしっかりとっている。 ●工夫の必要な計算問題は、あきらめてしまう生徒がいる。	複雑な計算問題については、時間を多めにとり、じっくり解かせる工夫をする。また、生徒同士の教え合い活動も活性化する。
図形	今後、学習予定につき、昨年度の状況 ○概ね良好である。特に空間図形について理解している生徒が多い。 ●球の体積・表面積等の公式や、応用問題について理解不足の傾向がある。	視聴覚教材や具体操作なども取り入れることにより、苦手意識を克服させる。
関数	今後、学習予定につき、昨年度の状況 ○比例の関係やグラフについて比較的理解度が高い。 ●比例・反比例の活用問題についての理解力が比較的に不足している。	身近に存在する問題を取り上げるなどし、関心意欲を高める。
資料の活用	昨年度の状況 ○基本的な内容を理解している。特に度数分布表とヒストグラムの関係をよく理解している。 ●相対度数や資料の活用問題についての理解力が不足している。	記述の問題については、最初からあきらめてしまう傾向のある生徒が多いので、ていねいに説明するとともに、任意小集団の教え合い活動などを取り入れる。

宇都宮市立宝木中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	70.3	69.2	68.6
	身の回りの物質	53.2	52.2	51.1
	植物の生活と種類	68.6	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	56.0	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	51.7	51.1	50.1
	観察・実験の技能	65.8	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	67.5	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

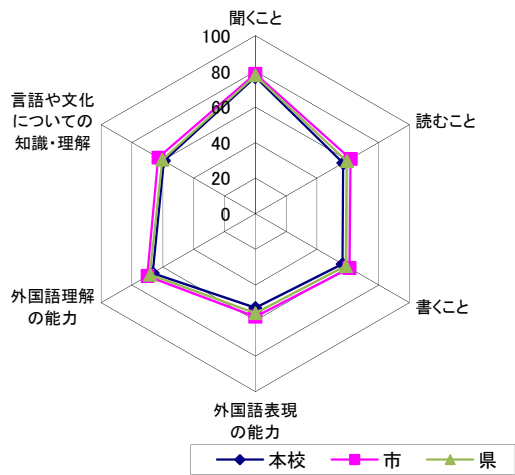
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○実験に意欲的に取り組んでいる。様々な物理現象に興味を持ち、学習に励んでいる。 ●物理現象についての理解はあるのだが、計算で浮力を求めたり、圧力を求めたりすることに苦手意識を持っている。	実験をより充実させると共に、授業の合間に計算問題などを多く取り入れ、問題の解き方や計算の仕方をを行う。
身の回りの物質	○気体の発生させ方や、気体の性質に対する知識や技能についてはおおむね満足できる状況である。 ●実験に意欲的に参加する生徒となかなか自分から活動できない生徒に差が見られる。また、実験内容が難しい題材に関して、苦手意識がある。	1つ1つの実験の意味や、実験に入るまでの過程を大切にする。実験の際はワークシートを配布し、予想や結果をまとめやすくする。
植物の生活と種類	○スケッチや観察など、細部にまで目を光らせ授業に臨んでいる。植物に関しての知識や理解にも、努力する姿が見られる。 ●顕微鏡の実験の際に、なかなか手を出すことができない生徒が見られた。	顕微鏡の扱いなどをもう一度復習し、全員がまんべんなく扱えるよう配慮する。また、こまめに小テストなどを行い、実験の技能や知識が身につくようにする。
大地の成り立ちと変化	○火山岩のつくりや堆積岩の特徴について、意欲的に取り組んでいる。授業中のスケッチや、班での活動も協力しながら学習している ●重要語句は覚えていても、それらの意味を一緒に覚えていない	問題に多く触れさせる時間を設けると共に、語句などは意味も合わせて覚えるよう普段から声をかける。

宇都宮市立宝木中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.9	78.7	77.8
	読むこと	56.9	61.7	59.2
	書くこと	56.5	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	52.9	57.9	55.8
	外国語理解の能力	66.7	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	59.4	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○単純な内容の聞き取りについては、多くの生徒が正答 できている。 ●少し長めの対話文や否定文などが入る英文の聞き取りについては、県や市と比べて正答率が低く、聞いた内容を即座に理解することができない生徒も多かった。	今回の調査が4月であったことから、出題範囲等を分析すると1年生の内容への理解が不十分であったことが考えられる。このことから1年生の復習も少しずつしていくことで、理解が不十分な内容については改善していきたい。また、英語を聞くということを多くするような授業展開をしていくことで、英語を聞き取る力をつけていきたい。具体的には、簡単な指示や説明は英語で行いながら生徒に内容を理解させたり、ALTとの授業の中で、説明や話を聞く機会を増やしたりすることで改善していきたいと考えている。
読むこと	○英文の大まかな内容は理解できている。 ●大まかな内容は理解できているものの、細かな内容については理解できていない生徒も多く、基本的な文法の知識や単語の語彙力がないため、詳しく読み取れていないのだと思われる。	英文を読むということに苦手意識を持っている生徒が多いため、まずは教科書の本文を正確に読み取ることを基本とした授業を展開していきたい。そのなかで様々な英文に触れさせていき、短い文を速く正確に読み取る力をつけさせたい。また、様々な英文に触れることで語彙力についても高めていきたい。短い文を読めるようになることで、英文を読むことへの苦手意識をなくしていき、最終的には長文であっても、すらすらと読み取る力をつけさせていきたいと考えている。
書くこと	○内容にあった単語を書くような問題などは比較的正答率が高い。 ●英作文を書く問題では、ただ単語を並べるだけで英文として成り立っていないような誤答をする生徒が多かった。	この調査の結果を受け、授業の中では英語の核となる、主語と動詞について重点を置いて学習を進めている。英作文では主語と動詞をしっかりと書くことで全体的な成り立ちを構成させ、その他に文法や単語・熟語等を使ってより複雑な表現もできるように指導しているところである。最近では、身近なことを簡単な英文で表現できるようになった生徒も増えてきているため、今後もこのような指導を継続していきたい。

宇都宮市立宝木中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が

- 家で、学校の宿題をしている。
- 学校の授業以外に、1日1時間以上学習している生徒が70%くらいおり、休日は時間を増やしている。
- 読書においては、月に1～2冊以上読んでいる生徒が90%で、毎日30分くらいは読書の時間を取っている。
- テストでまちがえた問題について勉強している。
- 学校の宿題は自分のためになっている。
- 勉強していて、おもしろい、楽しいと思え、「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることもある。
- 授業では、自分の考えを発表する機会があり、クラスの友達と話し合う活動がある。
- 授業を集中してうけている。
- 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。
- 学校のきまりやマナーを守っている。
- 毎日朝食を食べている。
- 学校の準備は自分でしている。
- 人と話すことは楽しいし、ふだんの自分の生活を「楽しい」と思う。
- 時間や約束を守ることは大切だと感じている。
- 家で、学校に授業の予習・復習はあまりできていない。
- 学習に対して、自分から進んで取り組んだり、話し合いに進んで参加することがやや低い。
- 携帯・スマートフォンを55%の生徒が所持しており、60%の生徒は、1時間以上使用している。
- 家で学校のできごとについてはよく話をしているが、将来のことについては、あまり話ができている。
- 新聞はほとんど読んでいない。

見られるもの

生徒が多

ている。